

平山 タカヒサ

市民とスクラム！市政にトライ！

2023年
議会報告 vol 26

自宅 〒891-0116
鹿児島市上福元町5779-5
電話 099-267-0300
携帯 090-8769-6584



2023年第2回定例会

2023年第2回定例会は、6月28日の最終本会議において、補正予算24億2,501万3千円や条例その他の案件について可決し、閉会した。

今回の補正予算の主なものは、高騰する物価や燃料費等への補助や保育所等の待機児童解消対策などです。具体的には、新型コロナウイルス感染症等の影響により深刻な打撃を受けている公共交通への支援、民間保育士等の処遇を改善するための補助、配合飼料価格高騰に対する助成、保育所や学校給食費の負担軽減、インバウンド観光の再始動を図るため、桜島と錦江湾

を生かした高付加価値観光商品の造成・販売のための経費等です。

条例その他の案件については、電動キックボード等の税率の設定や市営バスの乗車料金の改定、消防車や高規格救急車の購入等です。

今議会において、我が会派から「教育予算の拡充を求める意見書」を提出し、全会一致で採択されました。意見書では、いじめや不登校、貧困による格差、教職員の多忙化等の解消を図るため、教職員の定数改善と義務教育費の国庫負担割合を堅持することを国へ求めました。



学校給食費支援補助金

物価高騰の影響を受ける保護者の負担軽減を図るため、学校給食を実施している市立小中学校に対し、9月から11月の3か月分の学校給食費を無料とするよう学校に補助する。



保育所等給食費支援補助金

物価高騰に直面する子育て世帯の経済的負担を軽減を図るとともに、栄養バランスや量を保った給食を実施するため、園児に給食を提供している保育所等に対して経費を負担する。物価上昇率を10%と見込み、基準単価を主食+副食費は7,500円、副食費のみは4,500円とし、園児数を乗じた額を保育所等に補助する。



愛のふれあい会食事業

物価高騰の影響を受ける愛のふれあい会食について、食材調達に係る経費を増額し、利用者のサービス水準の維持を図る。物価上昇率を17%とみなし、1食当たりの配食費用中、市からの委託料を69円上乗せし564円とする。対象期間は7月から3月末の9カ月。

心をつなぐ訪問給食事業

同じく、心をつなぐ訪問給食について、食材調達等に係る経費を増額し、利用者のサービス水準の維持を図る。物価上昇率を17%とみなし、市からの委託料を70円上乗せし490円とする。

平山タカヒサのプロフィール

1967年 11月30日名瀬市（現奄美市）生まれ
伊津部小学校→西谷山小学校、谷山中学校
鹿児島中央高校、県立短期大学II部商経科卒業
1987年 鹿児島市役所入庁
2015年 9月30日市役所退職
2016年 4月市議会議員選挙に出馬。初当選。現在2期目

市政報告

個人
質疑

問 児童相談所の新たな候補地に農業試験場跡地とするに至った経緯は。早期設置が図られるのか。

答 議会から、早期設置に関する指摘や要望が数多くあり、本市としては、5年度に付加機能を決定したいと考えているが、鴨池公園駐車場は、整備に時間を要するなど課題もあり、早期の設置を図るという観点から、同駐車場に加え、新たな候補地の検討が必要であるとの考えに至った。同跡地を候補地に加えることについては、令和5年第1回定例会後に所管局を中心に内部で協議し検討した。近隣に関連施設として南部親子つどいの広場や南部保健センターがあり、施設の複合化の検討の必要性が無いとの判断に至ることも考えられるので、早期設置も可能となるのではないかと考えている。

問 不登校児童生徒の現状と対策について、フレンドシップ（適応指導教室）の概要と増設に対する考えは。

答 本市の不登校児童生徒数は、小・中学校別に、以下の表とおり。小中学校ともに増加傾向にある。

	H29	H30	R元	R2	R3
小学校	87人	113人	149人	165人	302人
中学校	470人	484人	508人	532人	852人

全児童生徒数1,000人当たりの不登校児童生徒数について、本市と人口50万人以上の中核市のうち、船橋市、川口市、八王子市、姫路市、宇都宮市の5市の平均は以下の表のとおり。小・中学校ともに本市が少ない状況。

	本市	5市平均
小学校	9.2人	13.3人
中学校	52.9人	59.4人

フレンドシップは、学校復帰を支援し、社会的自立に資することを目的として設置しているが、登校という結果のみを目標とするのではな

く、個々の状況に応じて、安心して学習や相談ができる場所であると考えている。フレンドシップに通級する児童生徒数は、以下の表のとおり。

	H29	H30	R元	R2	R3
小学校	8人	11人	8人	14人	26人
中学校	121人	116人	116人	106人	128人

現在、フレンドシップの設置場所は、長田中、南中、谷山中、城西中の4校と鴨池の勤労青少年ホームの5箇所であり、教室の増設については、増加傾向にある不登校児童生徒の支援の場として重要な施設であると考えているので、今後研究したい。

問 市立高校の活性化について、各校どのような課題があり、今年度の活性化策は。また、男女共学についての考えは。

答 玉龍高校については、中高一貫教育校としての特色を生かし、大学進学など生徒の進路実現に更に努めていくことや、商業高校と女子高校については、定員に満たない学科があること等が課題。5年度は、玉龍高校は、スタンフォード大学の専任講師によるワールドステップeラーニング事業、商業高校は、スポーツジムと連携した「体づくり教室」、女子高校は、出前授業を行う「鹿女子チャレンジ」などの活性化策を講じ、取り組んでいます。男女共学化については、商業高校について、学校の歴史や生徒の意見、生徒募集など様々な観点から意見交換がなされ、速やかな実施に向けて検討が進められており、現在、学校と市教育委員会が連携を図りながら対応している。

社民・立憲・市民フォーラム

団長 大森 忍（防災福祉子ども委員会）
 副団長 森山 きよみ（産業観光企業委員会）
 幹事長 中原 力（市民文教委員会）
 政審会長 まつお 晴代（市民文教委員会）
 秋広 正健（建設消防委員会）
 平山 タカヒサ（総務環境委員会）
 向江 かほり（総務環境委員会）